多義語連想検査の解釈の試み

—事例研究を中心に—

森　谷　寛　之

* An Attempt of Interpretation of Word Associations to Words of Multiple Meaning —through Case Stuties—

Hiroyuki Moritani

はじめに

前報（森谷　1977）において，同音多義語80語と一義語20語を刺激語として連想実験を行ない，その統計的結果を報告した。そこでは次のような結果が得られた。連想課題では，精神病群は大学生群（統制群）や神経症群よりも刺激語の多義性（M値）に気づくことが少なく，統計的有意差がみられたが，神経症群と統制群には有意差はみられなかった。また一般に，神経症群は多義語に含まれる不安，衝動的意味に対して敏感に反応するが，精神病群は，神経症群に比べこのような反応が少なくなっている。さらに，自我防衛という観点から，神経症と精神病群の相違が指摘された。

臨床場面においては，これらの統計的データよりもむしろ独自な個々の被験者の世界に関する具体的情報を得ることが重要である。この論文の目的は，前報で明らかにされた統計的事実をふまえ，症例研究を通じて従来の言語連想とは異なった新しい言語連想法の解釈を試みることである。

まず，言語連想検査のもとになっている Jung の考え方をみてみよう。Meier (1968) によると，Jung は次のような項目をコンプレックス指標として選び，解釈の基礎としている。

①反応時間の遅れ（中央値の0.4秒以上を目安とする），②再生まちがい，再生欠除，③固執(perseveration)[註1] ④反応語を思いつかない，⑤刺激語を反応語としてくり返す，⑥刺激語の聞きまちがい，⑦反応語に物まね，身ぶりをともなう，⑧感嘆詞，叫び声，どもったり，反応語を言いまちがったりする，⑨擬声音的反応，韻をふんだ反応，⑩文章化した反応，⑪外国語による反応

以上のような点を手がかりとして，被験者に内省を求めたりして，全体を総合的に判断する。このような Jung の視点は，多義語連想検査の場合にも妥当すると思われる。Jung[5] の考えていた連想検査の目的は，当時の精神分析学の考え方に従い，主に無意識的な衝動や内容が「何であるか」を捜し出すことにあった。即ち，テスト状況下で一時的に退行し，現実機能の低下や防衛の弱化した状態の自我にエスの衝動を触発するような刺激語を与えることにより，無意識内容やその衝動の強さを測定しようという試みであった，と言うことができるであろう。

しかしながら，刺激語が多義語の場合には，一つの刺激語の中に相矛盾するような多数の意味を含むため，自我は一種の葛藤状況におかれることになる。自我は，種々の意味を取捨選択しな

がら出来るだけ素早く一つの反応語を呈出しなければならない。この場合，意識的にせよ，無意識的にせよ，自我に脅威を与える語義を避ける（Abwehr, defense）ことが可能である。多義性を含んだ刺激語を被験が「どのように受けとめ，自己の体験をもとにして答え得るか」という体験の様式に注目することができるであろう[註2)]。Jung の連想検査を極めて端的に表現するならば，「無意識のコンプレックスは何か」という問いであったが，多義語連想検査の場合は，Jung 的発想のもとに言うならば，「無意識コンプレックスと自我はどのような関係にあるのか」という問いとなる。このような問いは，Freud 以後の自我心理学が問題として取り上げた問いである[1,3,8)]。多義語連想検査の解釈に当って，どのような理論的立場に立つのが最も実りあるかについては，今後とも検討を続けていかなければならない。さしあたりは，自我心理学を連想法に適用するというのではなく，多義語連想検査に現われた現象を整理統合してゆく上で，極めて有用であるという理由の故に，自我心理学の理論を利用したいと思う。

多義語連想検査の解釈を試みる前に，まず刺激語表自体の特色についてあらかじめ知っておく必要があろう。100語の刺激語は多義性を持っている故に，実際には100語以上の反応可能性を秘めている。これらの刺激語は各々独立しているようであるが，相互に網状の有機的関連性（多義性の網）を持っており，被験者のコンプレックス，反応の構え，思考様式等によって一連の傾向が出て来るであろう。たとえば，性的意味を含むいくつかの刺激語（しきゅう，こい，ちち，せい等）を一連のものとして観察することによって，被験者の独自な体験様式が浮き彫りにされるであろう。

また，多義語のどの語義に気づき易いかはある程度の一般的傾向がみられる。即ち，ポピュラー反応と個人的反応語である。稀にしか出現しない語義に反応する場合（例えば，しきゅう→支給，死球，やく→役，訳，しき→死期，しかい→死界，げんし→幻視など）はその被験者の独自の体験を表明していると考えてよいであろう。そのような場合には，必ず内省を求める必要があると思われる。

以上のような立場から，本論文では，実際の事例に即して解釈を試みていきたいと思う。

検　査　手　続

平仮名で記入した刺激語カード100枚を被験者に裏向けて台の上に載せる。テスターの合図で被験者がカードを表に向けた時刻を反応開始時刻とする。被験者は口答で反応語を呈出する。反応語の第一音までを1/5秒単位のストップウォッチで反応時間として測定する。

教示法

＜教示1：反応段階＞「カードを見て思いついた言葉を1つだけ，何でもいいですから出来るだけ早く答えて下さい。」反応時間を測定。

＜教示2：再生段階＞「今までの反応を確かめる為に，もう一度カードをお見せしますから，前に答えた言葉を思い出して答えて下さい。」

＜教示3：連想段階＞再びカードを見せ，「初めてカードを見てから反応語を答えるまでに多義語だと気づいたカードを言って下さい。今見直してあらためて別の意味に気づいたカードや反応語を言い終ってから，別の意味に気づいたカードは除いて下さい。」「あめ，はし」のカードを別に用意して多義性の説明を行なった。（多義度M値はこの段階で得た値である。）

＜教示4：限界検査＞「今述べていただいた他にも，まだいくつか他に多義語のカードがあります。今からカードを見直して思いつくだけ，できるだけ多くの意味をあげて下さい。」最大限何種類の語義を見つけ出し得るのか，また特にどの語義（特にポピュラーな語義）を見落し易い傾

向があるのかを調べるのが目的である。また多義語を被験者が「如何に説明するか」も重要である。（最大多義度 Mmax. 値はこの段階で得た値である。症例 B, C にはこの検査は行なっていない。）

事例研究

1）神経症の事例

〔事例A〕ヒステリー

32歳，女性，高卒，12年位以前から仕事中に左手首の痛み，顔面の痙攣等のヒステリー症状が現われる。医師によりヒステリーと診断されている。詳細な生活史は不明。父は死亡。三人兄弟（姉，兄）の末っ子。病院で実施した Y-G テストはA型を示している。（Table 1）.

Table 1. 事例A 多義語連想検査表

Stimulus	Reaction	Time (sec.)	Reproduction	Remarks	Limiting Test
3. うれしい	仕事してうれしい	2.9	しあわせ		
4. かみ（紙，髪）註4)	何のかみのことですか　びんせん	7.9	＋	びんせんと頭のかみ	
8. きょうい	旅行．いや．いやなことあったらもたない	17.2	全然わすれました	どう説明していいか浮んでこないんです	分らない．どう説明していいか
10. ま　ど	しめる	27.7	敷　居		
11. きゅうけい	しんどい	3.5	体をやすめる		しんどくなってだけしか分らない
12. どうよう	歌	2.5	＋		うたとえ本
13. きゅうこう	国　電	4.7	＋	国電と阪急	国電と阪急と市電と阪神電車
15. しきゅう	危　篤	4.5	＋	病気と用事，危篤の時に至急おいで下さいと電報を打つ．急にお産して至急おいで下さい	さっき言ったことだけ
16. やく（薬，役）	おくすり	2.9	＋	おくすりと係．私は組合活動の役員だから	さっき言ったことだけ
17. きゅうこん	植　物	3.9	＋		植物ですけどひとつだけしかうかばない
18. や　ま	みどり	3.7	＋	本当の山と死ぬか生きるかの山	さっき言ったとおり
23. いじょう	病　気	2.3	体　質	異常体質と性質だけ	
24. りょこう	りょこう	5.9	あそぶ		旅行は旅行だけ
28. かける	命	3.5	＋	命と勉強すること	就職，進学に命をかける
32. きょうだい	人　間	3.7	人		人とかがみ
34. は　い	煙草の吸い殻	1.3	＋	死体を焼いた灰と何か燃やした時に灰になる	さっきの通り
35. ちち（父，乳）	お　や	2.5	＋	おやと牛乳	母乳もあります

37. し	し	2.3	字で書く		詩をつくる．死ぬということは，これには当てはまらない
38. ふくしゅう（復習，復讐）	勉　強	2.5	＋	勉強といじめられて，復讐する時があります	
39. うまい	仕　事	3.7	お料理	歌をうたうこと．作ること，料理をつくること	和服，洋服をつくることがうまい
44. しき（敷）	戸	4.0	ま　ど		戸の数と窓の数
48. びょうき	じんぞう病	3.1	が　ん		
49. かくしん（確信）	決定する	5.3	決　定	生きている限りは何々するという確信をもつ	
50. こうかい	苦しむ	3.1	性　質	誰でも怒って後悔する	仕事に失敗して後悔する
51. こい（鯉，恋）	おさかな	3.7	＋	魚と人間関係	
55. せいふく	学　生	8.7	＋		学生の制服しか浮ばない．征服するとおっしゃる方がありますけど急には思いだせないんです．
65. が　ん	病　気	1.9	＋		病気と音がガーン
69. きたい	待　つ	3.7	＋		よい方に期待する
71. は　る（張る，貼る）	性　質	3.0	＋	気を張る．ふすまを貼る	
75. せい（背）	身　長	2.3	＋		身長だけしか分らない
80. ほこり（埃，誇り）	は　く	2.3	そうじ	ゴミと性質．ふとんの綿ぼこり	
81. あか（赤，垢）	明るい	2.5	＋	色と体のあか	
83. じしん（自信，地震）	性　質	2.7	天　災	性質と地震がおこる．くよくよせんと大きな気持をもって下さい	強く自信をもつ
86. ぜんしん	期待する	4.1	体そう		体のことだけしか分らない．前進を期待するというのは私は使わないので
87. い　し（意志，石）	性　質	3.1	＋	庭にある石と性質	
95. いかり	気　持	3.5	性　質		腹が立つと怒りに燃えることしか分らない
100. いのる	神　様	1.9	心		旅行した場合神様に祈るしか分らない．

＜数量的分析＞

平均反応時間（Mdn）は 3.1 秒は統制群の平均値（2.5 秒）に比べると遅いが，神経症群の平均値（3.6 秒）に比べると早い方である。また，2 義以上連想した刺激語の平均反応時間は 2.9 秒であり，全平均反応時間とほぼ同じ位である。2 つの意味の選択状況においては，比較的素早く一方の意味を選択し得ると思われる。再生欠除 2，再生まちがい（語義の転換まちがい 1 [註3)]，じしん／性質／天災）計36。これは統制群の平均18.0，神経症群の平均値26.3より多く，

情緒的あるいは知的な記憶障害がみられるであろう。M 値は 121（統制群の平均値 117.9）は神経症群の平均値 121.7 にほぼ等しい。一方 Mmax. は 135 と非常に小さく，多義語の見落としが非常に多い。

<内容分析>

a. 仕事に対する反応

全体に仕事に対する反応が随処にみられる。「3. うれしい／仕事してうれしい」「16. やく／係，組合活動」「39. うまい／仕事」「28. かける／就職，進学に命を賭ける」等にみられるようにものすごく頑張って仕事に取り組もうとしている姿勢が感じられる。そういう面の緊張の強さをうかがわせる（「71. はる／性質／気を張る」）。しかし，その反面，仕事や人生に対する疲労感，挫折感を訴える反応も随処にみられる。（「11. きゅうけい／しんどい／体をやすめる」「50. こうかい／仕事に失敗して後悔する」「83. じしん／くよくよせんと大きな気持をもって下さい」）彼女の仕事に対する両価的な感情が良くあらわれている。しかしながら以上のような仕事に関する反応は，比較的反応時間も早く自我も防衛しようという態度がみられない。むしろ意識の表層に属する出来事であると考えられる。

b. 奇妙な反応

「8. きょうい／旅行，いや，いやなことあったらもたない／17.2 秒／全然忘れました」

非常に長い反応時間，奇妙な文章化した反応，再生欠除，さらに「どう説明していいか浮んでこないんです」と多義語のどの語義からの連想であるかも答えられない程自我が混乱している。最も自我が安全な状況に在る限界検査の段階においても，「分らない，どう説明していいか」と混乱はおさまっていない。「全然忘れました。浮んでこない」という言葉は，彼女がこのような反応語を口に出したことすら忘却されてしまっていると考えられる。ヒステリーは，一般に防衛機制として抑圧 repression をとるとされている。抑圧は，意識しがたい観念や衝動を意識から無意識に追放する不随意的かつ自動的な働きであり，その結果，抑圧された内容は随意的意識的に回想しえなくなってしまう。ここでの抑圧はしかし，完全に抑圧されてしまっている訳ではなく，「旅行」という形で少し漏らしている。彼女がふと漏らした「旅行」を手がかりにして，旅行に関係のある反応を追っていくと，「13. きゅうこう／国電／4.7 秒／＋」
内省や限界検査で多義性には注目せず，「国電と阪急と市電と阪神電車」と知り得る限りの電鉄会社の名を強迫的にあげているのも奇妙である。「24. りょこう／りょこう／5.9 秒／あそぶ」刺激語の単純なくり返し，反応時間の遅れ，再生まちがい。「100. いのる／神さま／1.9 秒／心」これは再生まちがいだけであるが，限界検査時，「旅行した場合，神様に祈るしか分らないんです」とやはり旅行に関係している。何か心的外傷事件が予想される。このように抑圧すべき内容を，あちこちで「不用意に漏らしている」のもこの被験者に特徴的である。

c. 死，性，攻撃性

「18. やま」で「本当の山と死ぬか生きるかの山」を思いつき，「本当の山」から「みどり」という反応語を呈出したと答えている。「山」から「死」を連想するのは稀である。「34. はい」で「死体を焼いた灰と何か燃やした時に灰になる」と思いつき「たばこの吸い殻」を答えている。「はい」から「死体」を連想するのは稀な反応である。それ故に，彼女には「死」に関する強い関心があることが想定されるであろう。しかし，一方，「37. し／し／2.3 秒／字で書く」の反応は注目に値する。刺激語「し」は一番直接的に「死」のイメジを喚起する刺激語である（統制群では，87%の人が「死」の語義に解釈し，それから反応語を呈出している）。彼女は，刺激語の単

純なくり返しで反応を拒否している。再生反応ではわざわざ「私は死ぬなんて連想していませんよ」といわんばかりに「字で書く」と強調している。限界検査ではついに彼女の方から自発的に「詩をつくる。死ぬというのはこれには当てはまらない」と答え，彼女独得の方法で「死」を否定 negation している。否定は，「抑圧された内容を意識化または言語化しながら，しかもその内容を否定する，あるいは否定的な形で話題にする[8]」という防衛機制の在り方である。また，葛藤を持つ者は強度の刺激に対しては回避反応を示し，弱い刺激（やま，はい）には逆に接近反応を示すことが研究されており[4]，「し」は彼女にとって余りにも強い刺激すぎたと思われる。このような否定，あるいは選択的知覚（Klopfer；河合，1969）の現象は他にも多く見られる。「55. せいふく」に対して「征服するとおっしゃる方がありますけど急には思いだせないんです」，「86. ぜんしん」には，「体のことだけしか分らないんです。前進を期待するというのは私は使わない」，「15. しきゅう」には「急にお産して至急おいで下さい」とつけ加えたようにして述べ，「お産」まで言っていながら，「子宮」を連想したとは決して言わない。「子宮」にみられるように性的な反応は強く抑圧されており，ほとんど反応として出ていない。「51. こい／お魚」の反応で「魚と人間関係」を思いついたと述べているぐらいが唯一の性的反応ではないであろうか。

攻撃性に関しては，反応語として顕在化していないが，内省では「38. いじめられて復讐することがあります」「95. 腹が立つと怒りに燃える」と述べており，性的反応よりは，幾分か顕在化し易いと思われる。

d. まとめ

①仕事に対して気を張りつめて頑張ろうという姿勢をもっているが，一方自信のなさ，挫折感の訴えがみられる。しかし，このような反応はむしろ意識の表層に属する出来事であると思われる。

②ヒステリーに広く見られる抑圧，否定などの防衛機制が観察された。

③性的反応は皆無に近く，また死に対する不安反応がみられた。

〔事例 B〕強迫神経症

24歳，私立大学生男子，家族は父母と本人の 3 人。幼児より気管支喘息がある。大学院を受験するが失敗，他大学に編入するが出席していない。症状は不潔恐怖，過度に因果関係を調べるなどである。医師により強迫神経症として診断されている。（Table 2）.

＜数量的分析＞

平均反応時間 9.1 秒と非常に遅い。また 2 義以上連想した刺激語に対する平均反応時間は 11.7 秒とさらに長くなっている。これは，選択的状況下において，素早く一方を選びとり反応語を出すことが困難であるという柔軟性に欠けている自我を意味しているといえよう。再生反応は，再生欠除 5，再生まちがい（語義の転換 1「62. しんちょう」）計24である。これは神経症群の平均値に近い。M値は 131 で神経症群の平均値よりもかなり多い。

＜内容分析＞

a. 汚物，不潔恐怖，強迫観念

生活史から不潔恐怖が分っているが，それらをひろってゆくと，

「16. やく（焼く，約）／殺菌／消毒」「30. さいきん」「84. ながい」「93. つくえ」などに不潔恐怖をあらわす反応がみられる。「99. あく」は内省で「ふろのあくをとらなければならない」

Table 2. 事例B 多義語連想検査表

Stimulus	Reaction	Time (sec.)	Reproduction	Remarks
5. ま す	おすし	2.9	+	
8. きょうい	身体検査	4.7	+	
10. ま ど	ガラス	15.5	+	窓をいったいどうしょうもない．窓をあけても花が見えているだけであるし，因果関係がない。
12. どうよう	子守うた	14.1	+	
15. しきゅう(至急，子宮)	急 用	9.1	救急箱	
16. やく（焼く，約）	殺 菌	11.5	消 毒	about と焼く
18. や ま	高 い	32.9	+	山を与えられても木があるぐらいだし，川が流れているぐらいだし，因果関係がない。夏に人が押しよせることに対してもおもしろくない。
20. かわいい	子 供	19.1	+	かわいいという語を私はあまりつかわない。女の子が「かわいい」とよくいうが，それには反発する
23. いじょう(異常，以上)	正 常	4.0	+	
27. かてい	たたみ	28.5	−	一口ではいえない．それなりに適格なことばではいえない
30. さいきん(細菌，最近)	ふけつ	21.8	予 防	迷ったのちに，「細菌」を何にしようと迷った
32. きょうだい	ひとりっこ	3.5	−	
33. かいだん（階段）	武田泰淳	3.1	+	あるクラスから次のクラスに登りつめる
34. は い	内 臓	5.7	+	
35. ちち（父，乳）	両 親	5.6	+	牛乳を先に思いうかべたがやめた
37. し	縁 起	7.9	好ましくない	「死ぬ」というのは，ノートにする時には使わない．中学の時，祖母が死んだので使いたくない
38. ふくしゅう（復習，復讐）	学 習	6.3	+	
41. しょうたい（正体，招待）	消えふせる，観念	11.7	+	幽霊は枯れすすきである。強迫観念が消えふせる
44. しき（四季，死期）	ビバルディ	3.9	+	「死ぬ時期」は好ましくないのでさけた
45. しんり	無意識な発見	7.3	無意識	
49. かくしん	信頼度	30.9	+	
50. こうかい(航海，後悔)	航 路	23.9	+	先に「後悔」を思いうかべたが，好ましくないのでやめた
51. こい（鯉）	観賞用	6.7	池	「恋」は再生段階の時に思いついた
54. りょうしん	複 雑	22.3	+	
57. こうてい(皇帝，校庭)	ラベル	11.7	+	皇帝円舞曲の作曲家
59. こうふく（幸福）	人さまざま	9.1	まれにある	

60. わく（枠，湧く）	定　員	6.3	＋	泉が湧く，「観念が湧く」を思いうかべたが好ましくないので定員と答えた
62. しんちょう（慎重，身長）	つかみにくい	33.1	各人各様	慎重にことを構えるにしても結果が予測したようにつかめない。身長は各人各様だ。
69. きたい	む　だ	11.3	時　々	期待をかけてもむだに終ることが多い．時々それがうまくいく
74. く　も	くもの巣理論	8.3	＋	経済学の理論
75. せい（身長，所為）	各人各様	21.5	＋	「何々の所為」で「因果関係」と言えばよかった。しまったと思って，次のカードの時に動揺した。
80. ほこり（誇り，埃）	人　間	12.3	＋	「そうじ」はあまり単純すぎるので止めた。「誇り」は人間の価値で非常にひかれるものがあった。
84. ながい	ふ　ろ	10.7	＋	
87. いし（石）	山本有三	4.9	＋	路傍の石
89. いんき	性格検査	3.5	＋	
93. つくえ	せいけつ	5.7	＋	机をせいけつにするように心がけている。
95. いかり（錨，怒り）	出　発	7.9	＋	「怒り」にとらわれたが，わだかまると好ましくない事態になるのでやめた。
96. こども	大衆の反逆	9.8	＋	オルテガの本
99. あく（明く，灰汁）	休けい時間	33.0	まち，休けい時間	ふろのあくをとらなければならない。休けい時間があれば席が明くだろう。

と述べている。恐らくそのためにふろに「ながい」時間が要求されるのであろう。

「41. しょうたい／消えふせる，観念」や「60. わく」で「観念が湧くを思いうかべたが，好ましくないので定員（枠）と答えた」と述べている。いずれも，強迫観念について思いつきながらも反応として出すことを避けて防衛しようとしていることが分る。また因果関係に過度に囚われている例としては，「10. まど」で「窓をいったいどうしようもない。窓をあけても花が見えるだけであるし，因果関係がない」とか，また「やま」に対しても「山を与えられても木があるぐらいだし…」と述べている。反応時間の異常な長さは，強迫神経症者特有の過剰な正確さへの欲求の為であろう。また内省を求めると非常によく覚えており，混乱を示すことがないのは，先にあげたヒステリーと全く異なる点である。

b.　死について

「37. し／縁起／7.9 秒／好ましくない」内省で「死ぬという場面には，ノートにする時には使わない。中学の時に祖母が死んだので死を使いたくない」（彼の表現は少しおかしい）と述べている。「好ましくない」と避けようとしながらも他の語義へ切り換えて反応することができなかったようである。しかし，反応語として出す時には抽象的，知的に加工された「縁起」というふうに自己の内的生活感情とは切り離された形になっている。「44. しき／ビバルディ」には，「死期を連想したが好ましくないのでやめた」と言っている。この場合は一応防衛ができている。

c.　防衛の在り方

彼の場合，全体に感情を表面に出した反応語はほとんどない。ほとんど感情を伴わない名詞の反応語である。強迫神経症者は防衛機制としてヒステリーのような抑圧ではなく，衝動の早期発

達段階への退行と反動形成 reaction formation（防衛される感情や衝動と正反対の感情や衝動を意識したり表現したりする試み），分離 isolation （観念表象から，それに対する感情，衝動エネルギーを切り離し，観念表象のみを抽象化して意識化する試み），打ち消し undoing（一定の感情，衝動，行為を意識し実現した後にそれを打ち消す為に，正反対の感情，衝動行為をやり直す試み）などを用いることが知られている。[1,8]

この事例においては，ヒステリーのように「浮んでこない」といった形で思い出せないことはなく，内省を求めると正確に報告できる。死，性，攻撃的語義，例えばしきゅう（子宮），し（死），しき（死期），ふくしゅう（復讐），いかり（怒り）など一般に脅威を与える語義のほとんど全てを思いついた，つまり意識化した後にそれらを「好ましくない」からというので防衛している。例えば「95. いかり／出発」に対しても，「怒りにとらわれたが，わだかまると好ましくない事態になるから」と「怒り」を避け，「錨」から「出発」というように反応している。その為に異常に時間がかかってしまうのが特色である。このような衝動的なものを打ち消しながら積極的に何の防衛もなく前面に出てきている反応は，「33. かいだん／武田泰淳」「44. しき／ビバルディ」「57. こうてい／ラベル」「74. くも／くもの巣理論」「87. いし／山本有三」「96. こども／大衆の反逆」などである。反応時間も比較的早いものが多く再生も正しい。このように知性化の防衛がみられる。このような防衛過剰は，自我機能の硬化をもたらし，衝動や情動は少しも解放されないままになっているといえよう。

d. まとめ

①症状（不潔恐怖，強迫観念）に関する反応が多く見られた。

②反応時間の異常な遅れは，強迫神経症者特有の過剰な正確さへの欲求と，選択状況下での柔軟性のない硬化した自我の故であろうことが推定された。

③性，死，巧撃性などの反応もヒステリーの場合とは異なり，意識化したあとで反応として呈出することを避けている。感情の分離，打ち消し，知性化などの防衛機制が観察された。

2）精神病の事例

〔事例C〕パラノイア

25歳の男子大学生，入院中である。生活史は不明。恋愛妄想がある。（Table 3）

＜数量的分析＞

平均反応時間は 2.9 秒と精神病群の平均値（3.6 秒）としては非常に早い。再生欠除11，再生まちがい 6，計17。これは統制群の総再生誤数と等しく，知的な記憶レベルでの障害は少ないものと思われる。M 値は 104 で非常に小さく，多義性に注目する能力は低いと思われる。多義語に気づいた刺激語は，「79. さく（柵，裂く）」「85. はな（花，鼻）」「87. いし（医師，石）」「95. いかり（錨，怒り）」の 4 語である。M 値の小ささは精神病群の特徴をよく示している。

＜内容分析＞

a. 病　気

「1. あたま／いたい／2.3 秒／＋」「3. うれしい」「12. どうよう」「18. やま」「48. びょうき」「63. いま」「84. ながい」「86. ぜんしん（全身）」など病に関する反応が多いが，先の事例 A, B の場合とは違って，自我の生々しい葛藤を感じさせない表現であることに気づく。「びょうき／精神病」という反応にしても平然と語っているようである。「23. いじょう／おわり／2.1 秒／＋」には「異常」の意味には全く気づいていない。一般に，精神病群は，「いじょう」から「異常」の連想は神経症群に比べ少ない傾向がある。この被験者も，あまり自己の異常感に対する認識をもっていないのかも知れない。

Table 3. 事例C　多 義 語 連 想 検 査 表

Stimulus	Reaction	Time (sec.)	Reproduction	Remarks
1. あたま	いたい	2.3	＋	
3. うれしい	そう（躁）	5.3	よろこぶ	
4. か　み	god	1.8	死	god といったあとで paper を思った。
5. ま　す	マスターベーション	2.5	＋	
8. きよういい	胸	5.7	＋	
12. どうよう	イライラ	4.1	＋	
15. しきゆう	電　報	3.3	＋	「子宮」の意味は思いつかなかった。
17. きゅうこん	結　婚	2.9	＋	
20. かわいい	女	3.5	＋	
21. き　み	すてき	3.5	かわいい	
23. いじょう（以上）	おわり	2.1	＋	
24. りょこう	ハネムーン	4.3	－	
27. かてい	円　満	3.5	－	
35. ち　ち	ボイン	2.9	＋	父は思いつかなかった。
37. し（死）	自　分	2.3	＋	「自分というのは？」「いつも死を考えてるから」
38. ふくしゅう（復讐）	人　間	3.7	＋	
41. しょうたい	ばれる	2.5	＋	
43. うえる	餓　死	1.7	＋	
44. しき（死期）	到　来	2.7	＋	「到来は？」「自分の死ぬ時期が」
45. しんり（心理）	分らない	3.1	＋	「人の心理は分らない」
46. かえる	たまご	10.7	＋	何か知らんけど迷った。
47. き　じ	とりのきじですかちょっと分らない	21.5	－	迷った．記事，生地は思いつかなかった。
48. びょうき	精神病	3.7	＋	
49. かくしん	自　信	4.9	＋	自分に確信をもっている。
50. こうかい（後悔）	女	4.5	＋	
51. こ　い	女	2.1	＋	
54. りょうしん（両親）	良　い	3.7	＋	良いのは親のこと
55. せいふく（制服）	女学生	3.5	＋	
59. こうふく（幸福）	自　分	3.1	＋	自分は幸福だと思っている。
60. わく（枠）	殻	4.5	柵	
63. い　ま（今）	苦しい	2.3	－	
65. がん（癌）	こわい	1.9	＋	

69. きたい（期待）	将　来	5.9	−	
75. せ　い	sex	2.9	＋	
79. さく（柵，裂く）	へ　い	4.3	＋	
80. ほこり（誇り）	すてる	2.7	＋	自分のほこりをすてる。
82. まつ（待つ）	良　い	2.9	＋	待つことは良い．松は思いつかなかった。
83. じしん（自信）	自　分	2.7	＋	自分に自信がある。
84. ながい	病　気	1.9	＋	
85. はな（花，鼻）	ひまわり	3.3	＋	
87. いし（医師，石）	医　者	4.3	＋	
89. いんき	自　分	3.5	＋	
95. いかり（錨，怒り）	ふ　ね	5.5	＋	先に angry を思ったが避けた。

「45. しんり（心理）／分らない／3.1 秒／＋」に対して，「ひとの心理は分らない」と答えている。神経症者の多くは「自分の心理」に関係づけて答える傾向が強いが，彼のいい方は「他人の心理」を意味している。医師の話によると，彼は他人の心理を一面的に投影し読み誤ることが多く，いつもそれで失敗している。

「49. かくしん／自信／4.9 秒／＋」「59. こうふく／自分／3.1 秒／＋」「83. じしん／自分／2.7 秒／＋」「自分は確信をもっている。自分は幸福だと思っている。自分には自信がある」と述べており，このような自己に対する非現実的な確信は妄想的な世界にまでに至っていると思われる。

b. 性について

彼の症状は恋愛妄想であることが分っているが，性反応をひろってみると，

「5. ます／マスターベーション／2.5 秒／＋」「ます」は「升，鱒」が平凡反応であり，統制群の反応率は，鱒52%，升43%であり，「ます」から性的意味を連想するのは非常に稀である。しかし，彼の場合，反応時間も早く，再生も正しい。つまり，この反応は彼にとって何ら情動的混乱をひきおこしていない。一見正常者で性的罪悪感の少ない人の反応とまちがえやすい。また，平凡反応である升や鱒の意味に全く気づいておらず，全く多義性の一面性しか認知していないのも特徴である。「17. きゅうこん／結婚」「20. かわいい／女」「21. きみ／すてき／かわいい」「24. りょこう／ハネムーン」「35. ちち／ボイン」「50. こうかい／女」「51. こい／女」「55. せいふく（制服）／女学生」「75. せい／sex」等のように，性的意味を含む多義語のほとんど全て，また中性的な刺激に対してさえも性的イメジを連想し，それを何ら防衛することもなく反応として出している。反応時間の遅れもひどくなく，再生も正しい場合が多い。つまり，葛藤や悩みとして感じていない。防衛ということからすれば，神経症者の場合とは全く異なったエスに奉仕した自我ということができるであろう。また，「ちち」などは先にも述べたように平凡反応である「父」を全く連想しておらず，自己の内界を一面的に投影する傾向がみられる。本来多義性をもつことばの一面しか認知しないならば，対人関係は重大な危機に陥り，思いもかけぬ結果へと導かれることとなる。「人の心理は分らない」のも当然といえるであろう。

c. 死について

「4. かみ／god／1.8 秒／死」「37. し（死）／自分／2.3 秒／＋」「43. うえる／餓死／1.7 秒／＋」「44. しき（死期）／到来／2.7 秒／＋」「し」から「死」を連想するのは平凡反応であるが，「しき」から「死期」は稀である。反応語の「自分，到来」はよほど死と自分が親しい関係にあるらしい。しかし，性反応と同じくここでも葛藤を感じることなく，防衛しようという努力もない。主治医も心配しているように自殺の危険性に注意を要するであろう。「65. がん／こわい／1.9 秒／＋」「がん」は「し」に次いで「死」のイメジを喚起させる率が大きいが，それを「こわい」と反応していることは，少し希望がもてそうである。

「病気，性，死」のいずれも防衛されることがなかったが一応彼が避けようと試みている反応をあげてみよう。「79. さく（柵，裂く）／へい／4.3 秒／＋」「95. いかり（錨，怒り）／ふね／5.5 秒／＋」「いかり」は「先に angry を思ったが避けた」と述べており，また攻撃性を触発する「裂く」も避けており，攻撃性だけが唯一の防衛すべき対象になっているようである。

d. まとめ

①反応時間も早く，再生誤数も少なく，知的レベルでの障害はみられないように思われる。

②多義性に対して鈍感である。これは，刺激語に自分の主観を一面的に投影する傾向の為と推測された。

③病に対する反応が多くみられたが，神経症者のような，病に対する生々しい葛藤が少なく，かわって自己に対する奇妙な妄想的自信の強さをもっている。

④性や死に関する反応が露骨にみられ，自我防衛の在り方が神経症者とは異なっており，エスに奉仕した自我であることが指摘された。

総　　括

前報の多義語連想検査の統計的結果をもとにして，本論文では事例を通じて新しい言語連想法の解釈を試みた。多義語連想検査の場合には，自我防衛の探究に特に有用であることが指摘された。事例は神経症群からヒステリーと強迫神経症，精神病群からパラノイアをあげ，各々を比較対照しながら性格的相違を浮きぼりにすることに努力した。特に自我防衛解釈という点からヒステリーの場合には抑圧，強迫神経症の場合には分離，打ち消し，パラノイアの場合には投影などの防衛機制がテストから指摘された。

（博士課程大学院生）

註

1）ある刺激語の反応は正常であるが，その後につづくなんでもない刺激語に対する反応が異常な場合をいう。

2）「どのように」という体験様式に注目するやり方は，村上英治，他（1977）「ロールシャッハの現象学」東大出版に詳しく述べられている。このような被験者の生きられた体験に即して記述していく立場は筆者としても全く同感である。

3）語義の転換まちがいとは，この事例の場合，「じしん」から「自信と地震」の2つの意味を思いつき「自信」から「性質」と答えたが，再生段階では，「地震」から「天災」と語義を転換して再生まちがいをした場合をいう。

4）「かみ（紙，髪）」の表示は，初めてカードを見て反応語を呈出するまでに，「紙，髪」の両方の語義を思いつき「紙」を選択して「ぴんせん」と反応語を呈出したことを示す。

文　　献

1) Anna Freud 1936 Das Ich und Abwehrmechanismen. Internationaler Psychoanalytischer Verlag. 外林大作（訳）1958 自我と防衛，誠信書房

2) Freud, S. 1924 Der Realitätsverlust bei Neurose und Psychose. Internationale Zeitschrift für Psychoanalyse. Bd., 10. 加藤正明（訳）1971 神経症と精神病の現実喪失．フロイド選集10，日本教文社

3) 河合隼雄 1969 臨床場面におけるロールシャッハ法，岩崎学術出版

4) 小室直，桂広介，原野広太郎，江川玟成 1970 性的刺激図版に対する言語反応および GSR-性的罪悪感と刺激強度に関連して—，日本教育心理学会第12回大会発表論文集 240～241.

5) Jung, C. G. 1973 Experimental researches. The collected works of C. G. Jung, Vol. 2, Princeton: Princeton University Press.

6) Meier, C. A. 1968 Das Associationsexperiment nach C. G. Jung, Zürich und Stuttgart: Rascher Verlag.

7) 森谷寛之 1977 同音多義語連想に関する臨床的研究，教心研，25，1～9.

8) 小此木啓吾，馬場礼子 1972 精神力動論—ロールシャッハ解釈と自我心理学の統合—医学書院